

感染管理論

選 択

開講年次：2年次後期

科目区分：講 義

単 位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：感染管理理論と人間を中心とした医療、看護、介護の立場から感染管理の実践の基本を学ぶ。また、病院、高齢者施設、訪問看護事業所などにおける感染管理の重要性についての理解を深め、また、感染管理関連の国際機関について学ぶ。

- 到達目標**：①感染症の成り立ちを理解し、院内感染と地域感染の相違を述べることができる。
②感染予防の手法、ハンドラブ等の薬剤・備品に関する知識への理解を述べる事ができる。
③感染症法などの感染管理関連の法規を理解する。
④感染予防管理と危機管理・医療の質の改善コンセプトの関係を述べる事ができる。
⑤CDC、WHO等が感染管理で担っている役割とそれらの組織機能を理解する。
⑥総合病院における感染管理の実際を知る。

■**担当教員**：【○は科目責任者】

○スーディ神崎 和代・土佐 理恵子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 感染症の成り立ち
感染の定義、感染症成立の条件、感染経路のメカニズムを説明し、感染症成立の相互関係を明らかにする。また、院内感染と地域感染を定義し、医療施設や在宅で発生しやすい感染症について述べる。
- 第2回 感染症予防法
感染症の患者に対する医療関係法律・規則の概要、届出対象疾患、予防接種法などの概要を患者の情報保護も含めて説明する。
- 第3回 米国に於ける感染予防対策とCDCガイドライン
米国の感染予防対策の実際とCDCガイドラインから特に標準予防対策を説明し、現在の最先端の感染予防対策や事情を教授する。なかでも基本となる手洗い、防具・備品・洗滌・消毒・滅菌を含む感染管理の運営の基礎を述べる。
- 第4回 感染予防における危機管理と関連国際機関（CDC、WHO）への理解
感染管理における危機管理を定義し、院内感染や地域感染が発生した場合の管理プロセスを説明する。また、CDCやWHOなどの国際機関の役割を述べる。
- 第5回 感染予防管理と医療の質改善
感染予防・管理の立場から医療・看護・介護の質評価を講義し、PDCAサイクルを使用して質の改善過程を説明する。また、看護師の担う感染管理の意義と日本の看護職の立場から感染管理専門家育成の重要性を述べる。
- 第6回 感染管理の機器・備品に触れる機会を設定する。
陰圧ルームの適用場面とその意義を理解した上で、簡易性の陰圧ルームの組み立てを経験する。
- 第7回 病院感染管理の実際（その1）（土佐）
急性期医療施設に於ける感染管理の実践事例をもとに、感染管理の目的と概要を講義する。
感染管理プログラムの展開とサーベランス、感染管理組織の構築、運用、感染管理業務の概要について説明し、感染管理認定看護師の役割と活動について述べる。
- 第8回 病院感染管理の実際（その2）（土佐）
リスクマネジメントとしての感染管理の意義を実践の立場から講義する。アウトブレイク、職業感染の実例から感染管理がもたらす病院経営上の損失、患者・職員の健康被害について説明する。

※講義の順番は、進行状況などにより調整する可能性がある。

■**教科書**：なし

■**参考文献**：在宅看護学講座（2016版）スーディ神崎和代ほか、ナカニシヤ出版
NEW感染管理 ナーシングベストプラクティス 洪 愛子著 学研
サーベランスのためのCDCガイドライン 森兼 啓太 メディカ出版

■**成績評価基準と方法**：

| 評価方法 | 評価割合(%) |
|--------------------------|-------------------------------|
| 定期試験 6項目の到達目標を網羅する。 | 70% |
| 授業参加態度(討論への参加、発言、受講態度など) | 30% |
| 出席状況 | -5ポイント/1回 但し、1/3を超える欠席は欠格とする。 |

■**関連科目**：感染予防論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：この感染管理論では論拠のある感染管理に関する知識と考える力をつけてほしいと考えています（批評的思考力）。そして、それは現場で活動する時の応用力と的確な判断力に繋がります。感染管理の世界は常に変化しているので最新の感染関連情報に敏感になりましょう。又、日常生活の間で「感染管理」を意識する習慣を身につけましょう。